

審判上の確認事項

本大会は2026年度 公益財団法人日本バレーボール協会の定める6人制競技規則による。但し、別に定める小学生バレーボール競技規則を用いる。

<ルールの取り扱いについて>

- 1 児童の善い行いに対しては、フェアプレー精神の育成のため積極的にグリーンカードを出してください。
- 2 公式練習はサービスを得たチームから行う。公式にエントリーされた選手以外は公式練習に参加できない
- 3 試合の継続が危険な状況であると審判が判断した場合は、ラリーをノーカウントとする。(隣のコートよりボール・選手が試合をするコートに侵入した。ネット際でなんらかの事情で選手が負傷した場合など)
ラリーの継続については競技エリアのみで可能であり、小学校体育館におけるフリーゾーンは、隣接するコートのサイドライン(延長線上)までとします。※市民体育館等の場合は状況を確認し都度検証する。
ケガ防止のため、隣接コートのサイドラインをボールもしくは選手が超えた時点でアウトとします。
競技中断(タイムアウト・選手交代)の要求は、プレーがノーカウントとなった直後は要求する事ができない。
※競技者が負傷したケースの例外的な選手交代を除く。ただし例外的な選手交代を行った場合該当選手は、その試合に復帰することはできない。
- 4 監督は、試合を妨げたり遅らせたりしなければ、自チームのベンチ前アタックラインの延長線またはサブシュチュエーションゾーンに引いたラインからウォームアップエリアまでのフリーゾーン内で、立ちながらも歩きながらも指示を出す事が出来る。ただし、ラインジャッジの視界を遮ってはいけなない。
※ラインジャッジに対する批判・暴言は厳に慎む。ケースによっては罰則の対象となる。
- 5 サービスは、決められた順序に従って打つ。間違いがないよう、ベンチスタッフも十分注意する。
- 6 試合中の質問は、ゲームキャプテンのみ行うことができる。監督は認められない。
- 7 タイムアウトに入ったら、コートから離れなくてはならない。ただし、その位置については制限されない。また、タイムアウトは30秒間であるが、選手は30秒を待たずにコートに戻ってもよい。ただし、タイムアウトの時間が短くなることはない。
- 8 1セットにつき12回までの選手交代が認められる。ラリー中交競技者はベンチに着席しているか、ウォームアップエリアに位置している事。2ndレフェリーは記録を確認し、11回目と12回目の選手交代を1stレフェリー及び監督へ通告する。
- 9 試合中コートが濡れた場合は、コート内の選手がタオル等を用いて、ラリー終了後速やかに拭くこと。チームは十分な枚数のワイピングを準備すること。コート外まで幅広く濡れた場合は、審判が判断して指示するので、その指示に従い対応すること。なお、モップの使用は、タイムアウト・セット間、もしくは審判の指示した時のみである。この場合は、ベンチにいる競技参加者が速やかに行なうこと。
※トスの際に審判よりキャプテンへ伝える事。ボールに付着した汗の拭き取りなどはその都度審判に申し出る事。
- 10 明らかに選手・チームを威嚇する行為、反スポーツマン行為(暴力)や言動に対しては厳正に処理する。
※失格・退場など
- 11 セット開始前、ラインアップシートに記入されていない選手がコート上にいる場合
①監督がラインナップシートに記入されていない選手をコートに残すことを要望する場合は、監督は選手交代のハンドシグナルを示し正規の選手交代を要求する必要がある、記録用紙に選手交代が記録される。
②監督が提出したラインアップどおりの選手をスターティングメンバーとすることを要求する場合は、その場で選手を入れ替えさせる。その場合には制裁はない。

<審判及び補助員について>

- 1 予選リーグ及び決勝トーナメントの審判員の配置については、抽選会後に周知致します。
予選及び決勝トーナメント(1日目)については、各ブロックにて相互審判となります。
決勝トーナメント(2日目)第一試合については、第三試合(場合によっては第二試合)のチーム、以降決勝戦を含め負けチームにて補助員よろしくお願いします。
※公認審判資格(C・B級)を持つ方は、2日目以降のご協力をお願いします。
※審判についてはレフェリーウェアを着用のこと(新旧は問わない)。準備できない場合は、ポロシャツ・Tシャツ着用を認める。ただし長ズボンを着用すること(ハーフパンツ・ジーンズ等は不可)。補助員については、ユニフォームでは行わない事。ラインジャッジについてはチーム内で育成・指導を行う事。(試合と連続して補助員を行う際は臨機応変に対応する)
- 2 1st・2ndレフェリー・記録員はサービス順の確認に注意を払う。
- 3 1stレフェリーは試合の最終決定者であり、2nd・ラインジャッジの判定を総合的に判断しジャッジする事。
ただし1stレフェリーは、取り扱いの疑義について、レフェリーの判断でコントローラー/審判長/副審判長の意見を聞く事ができる。